

今日のみことば

□ 8月20日(日) 創世記 39章

エジプトのパロの侍従長ポティファルの家に売られてヨセフの生涯は一変した。しかし彼はその逆境に打ち勝つ道を歩み始めた。主は彼と共にいて下さり、祝福して下さった。

□ 8月21日(月) 創世記 40章

ヨセフは正しさのゆえに苦しまねばならなかったが、自暴自棄にはならなかった。彼は神の導きで夢解きしてひとりの人物を救ったが、彼は捨て置かれたままであった。

□ 8月22日(火) 創世記 41章

ヨセフはパロの見た夢について、来たらんとする七年の豊作と七年の凶作についての夢であることを解き明かし、神からメッセージを伝えた。彼は囚人から宰相に任じられた。

□ 8月23日(水) 創世記 42章

この時の飢饉は広範囲にわたり、カナンの地にまで及んだ。ヤコブの家族もエジプトに買い出しに行きました。ヨセフは久しぶりに家族に会いましたが、その扱いは冷たかった。

□ 8月24日(木) 創世記 43章

ヨセフの外見の荒々しさの背後には、以前の兄たちの対応に対する思いがあったが、兄たちは以前とは全く変わっていた。しかし彼らの罪責感はなくなっていなかった。

□ 8月25日(金) 創世記 44章

ヨセフの兄たちに対する試みはまだ残っていた。兄たちの袋に銀の杯を入れさせた。盗みの罪を問われるベニヤミンのためユダが身代わりを申し出、その家族愛をしっかりと見せられる。

□ 8月26日(土) 創世記 45章

ヨセフはユダのとりなしの願いに、強く心を動かされ、これ以上の確かな証拠はないことを知って、自分をあかししました。ヨセフは「私がここ遣わしたのは、神だ」と証しました。

ろば No. 1829

2017年 8月20日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ルカ 23:46

イエスは大声で叫ばれた。
「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。

イエスが十字架上で発せられた言葉は、私たちの人生に大きく影響を与えた言葉です。その最後の言葉は、イエスの十字架の出来事の意味をしっかりと私たちに確認をさせていただきました。その最後の言葉は四福音書それぞれに異なっています。福音書記者の受け止め方ですが、私は、ご自分に託されたなすべき務めを終えられ、すべてを父なる神さまにゆだねられるイエスに、私はどうも及ぶ者ではありませんが、安心してすべてを、主イエスにゆだねて行ける日々を過ごす者でありたいと願わさせられるのです。

ルカ福音書は、「イエスは大声で叫ばれた。『父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。』こう言って息を引き取られた」と、イエス

の最後の言葉を伝えてくれます。福音書記者がイエスの最後をどのように受け止めたかはそれぞれですが、ルカ福音書の記者は人の心に寄り添うことができる人でした。託されたすべての業を終えられて、イエスが叫ばれた言葉を、ご自分のすべてを天の父にゆだねられて、安らかに息を引き取られたイエスの最後を伝えてくれました。私たちが主にあっけいかに生きることがいかに幸いであるかを、イエスは私たちに伝えてくれました。

私たちはイエスがどのように、その公生涯を始められたかを知っています。あの荒野での40日間の試練を通して、イエス

はっきりと祈りをもってその公生涯を始められました。そのイエスはまた、祈りをもってその地上を歩まれ、そして、祈りをもってイエスはこの世を去って、天の父なる神さまのもとへ帰られました。ルカ福音書はイエスのご生涯を私たちにそのように語ってくれます。私たちはこのことを、しっかりと聞かせていただくのです。

ヨハネ福音書は、イエスは「すべてが終わった」といって息を引き取られた、と伝えましたが、それは精根尽き果てての敗北の宣言ではなく、勝利の叫び声でした。敵との最後の戦いに勝った勝利者のように、驚異的な仕事をやり遂げた人のようにイエスは声高くそれを叫ばれたのです。十字架にかけられながら勝利者となられたイエスの叫びでした。私たちの罪を贖いとられたイエスの叫びでした。

ルカ福音書は、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」と祈られて息を引き取られたと伝えてくれます。このイエスの安らぎの祈り、十字架の上でありながら、その苦痛のさなかにあつてのイエスの言葉、信じがたい光景です。その姿を見て「百人隊長はこの出来事を見て、『本当に、この人は正しい人だった』と言って、神を賛美した」とあります。これが、ほんとうにイエスが十字架の死を通して、私の罪を贖ってくださったことを信じて受け入れた者が、実感させていただいたものです。イエスは「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ11:28)と言われました。イエスが、ご自身が体験なさった天の父からの安らぎの喜びを私たちにしっかりと受け継いでくださいます。しっかりと信じておゆだねしてゆくことです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————
マタイ 25:31-46 活ける主のために

終末に備えるキリスト者の歩みについて、最後の審判の預言的描写の背景に、愛の奉仕の重要性を教えています。この教えは「羊と山羊のたとえ」として知られていますが、厳密な意味では「たとえ」というよりは、むしろ最後の審判の詩的描写とすることができます。

突然に主の審判は行われ、主の裁きの座に立たされる。そのとき主は、信者と不信者を左右に区別される。この区別、分離は、永遠の定めを示すものです。信者は天に備えられた祝福を受け継ぐことができ、不信者は永遠の地獄の定めが宣言される。信者が天国に入れられるのは、彼ら自身を謙遜な服従するものとした信仰のゆえであり、不信者が地獄へ行かねばならないのは、彼らの不信仰のゆえです。

主はそれぞれが行ったわざを示して、その相違を明らかにしておられる。



Read God's Word.